

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2491300212		
法人名	社会福祉法人 こもはら福祉会		
事業所名	グループホーム 新		
所在地	三重県名張市新田2940-6		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanistrue&ijisyosyoCd=2491300212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「喜怒哀楽を大切に」を基本理念として、その人らしさを尊重した支援に努めている。健康上の変化等の連絡は密に行い、面会に来られなくても安心して頂ける様に努めている。また、季節を感じていただく様に職員と一緒に壁紙作成を行ったり、利用者とともに食事メニューを考え職員と一緒にテーブルを囲み一人で食事をするのではなく和気あいあいと食事を楽しんで頂ける様に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2014年4月に開設され、今年満10年を迎える2ユニットの事業所である。利用者は男性2名・女性16名、平均年齢は85.9歳、平均介護度は1.9である。管理者は法人のデイサービスセンターの管理者から令和5年4月から事業所の管理者に着任された。まだ日が浅い中、この外部評価の調査票を全職員で取り組み完成させた。本来のチームワークの良さが活かされ、分かりやすい自己評価票になっている。一番の特徴は「喜怒哀楽を大切に」の理念を常に心に思い、一人ひとりに寄り添った支援に力を入れているところである。コロナ禍が緩和され、徐々に以前の生活に戻りつつある令和6年は、更なる飛躍を目指す管理者の声である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を集約した理念「喜怒哀楽を大切に」を共有している。職員が覚えやすく、対応に困っていたときなどは、理念に沿って対応することが出来る様、見やすい場所に提示している。	「喜怒哀楽」が分かり難い利用者に対して「なぜ今こんな行動を取っているのか」「どう関わればいいのか」などと、常に思いや表情を組み取りながら、理念に沿った個別支援に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和5年5月以降はコロナウイルスが5類に移行されたため、感染防止対策をとりながら交流の機会を持つことが出来た。	コロナ感染対策を優先していたため以前のような外部交流は控えていたが、中でも地域ボランティア（園芸、音楽）を定期的に受け入れていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染防止対策の為、積極的な関わりはなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、報告や話し合いをして意見交換を行っている。	運営推進会議は書類報告だったが、6月からは対面開催である。前年度の引継ぎから、活動報告、行事計画や質疑応答などの内容等を、丁寧に議事録に記録している。議事録は参加者へ送っている。	対面開催が始まり、様々な意見を聞く事が出来る環境になって来た。沢山の家族参加や「ヒヤリハット」「事故報告」などもプラスし、更なるサービス向上を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から保険者との連携は密に取っており、メールでの資料の等の交換や、参加できる研修には参加している。	行政への相談や運営推進会議の知らせ等、出掛ける事は多く、行政からの依頼もある。介護支援専門員は介護保険証の更新に出掛けたり、協力関係は出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管轄の第3はなの里で3か月に1回委員会が開催され出席し、他部署の事故・ヒヤリハットや対策等をGHでも共有している。	法人として3か月に1回管理者が集まり、それぞれの事故報告やヒヤリを議題に委員会を開催している。その議事録を作成し全職員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管轄の第3はなの里で3か月に1回委員会が開催され出席し、他部署と情報を共有し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	本人の思い、家族の思いを伺い一緒に話し合いながら決定していく。成年後見制度等については、必要であれば説明させて頂く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容説明を契約時に行っている。不明な点等についてはその都度伺っている。また書類を持って帰って頂いた後、わかりにくい点があった場合は連絡して頂く様伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と利用者との面会は条件つきで開始し、家族からの意見や要望を聞かさせて頂いたり利用者との日々の会話の中での意見を職員間で共有し反映している。	面会時や家族への定期的な電話連絡の際、家族の意向を聞くようにして、一番要望の多かった面会に関しては時間や場所を家族の要望に沿って柔軟に対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で問題点があれば改善点を検討し、毎月のケア会議の中で、職員間での意見を出し合い検討し、決定して運営する事を遵守している。	担当者が事前に意見をまとめ、月1回の職員会議で話し合っている。管理者も現場に入っており、色々な意見が聞け、最近は介護負担の軽減についての希望あった。法人として、夏と冬に管理者と施設長と話し合う時間がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を実施しており、法人内の異動希望調査等で希望を反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の案内を随時している。また外部研修等については、参加の対象となる職員へ受講を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染防止対策のため同業者との交流はほとんどなく、電話でオンライン等で情報交換を行った。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを聞き、出来る事・出来ない事を事前に話し合い、また家族の意見も参考にしながら安心して生活できる環境づくりを一緒にする等、利用者との関わりを大切にする事を意識づけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族間の状況等を話し合い、家族に協力を頂きながら、本人が笑顔で安心して生活を目標に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはグループホームでの生活に馴染んで頂けるように努め、家族が入居させたことに良かったと思って頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を支援される側だけでなく、役割を持ち、ともに思いやり、自然な共同生活をおくれる支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が出来る事や出来ない事、必要な事を把握し必要時に家族と話し合い、本人に適切な支援が出来るよう協力関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は面会規制の緩和をしたことにより、面会の人数・回数も増加した。面会は予約制としていたが、別の用件で来所された時も支障がない時は臨機応変に対応した。	馴染みの関係としては家族が一番多いが、年賀状は友人はじめ多数から届き喜ばれている。直近の馴染みとしては、月2回のボランティアによる音楽療法である。他には2ヶ月毎の美美容や、家族との美容院への外出がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング・食堂自席での会話の機会が多く、共同作業や季節の行事等でお互いに協力し合って行動できるように、職員の仲介である程度距離感をもった支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中の関係づくりを重視している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人の思い等引き出しながら希望や意向の把握に努めている。内容についてはケア会議等で共有している。	介護度は低く意思疎通は問題ない利用者が多い。意思疎通の難しい利用者も含め、色々な気付きや利用者の思いや意見は、直ぐに職員ノートに記録し、情報も共有できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居前に利用していた介護支援専門員や施設から情報収集し、本人の生活スタイルが把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり生活環境が違うことを念頭に、無理強いせず自己決定を促し、自分でできることは自分でして頂くよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で日々の生活等を協議する。家族との話し合いも電話だけでなく、来所時に話し合える時間を頂いている。介護計画は日々の職員の意見などを考察し、継続又は変更等判断した上で家族の同意を得ている。	利用者、家族の意向をもとに毎月のケア会議で担当職員の記録、意見を参考にモニタリングを評価し、計画作成担当者が現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	シフト制の勤務の為、申し送りや連絡ノートを活用し情報等の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会制限を緩和し、行動に関しては感染防止対策をして頂きながら柔軟な対応をしている。また、ここでの生活を楽しくて頂けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援や行事の際に弁当の配達等利用し、食への楽しみに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を家族の支援を下に利用して頂き、情報の提供を行い適切な医師の指示を得ている。	全員が今までのかかりつけ医であり、受診は家族対応である。健康管理として法人看護師による週1回の定期訪問、また緊急時や夜間時は本部が対応している。歯科医は週1回の訪問があり、職員への研修も年1回行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管轄施設看護師による定期訪問時に必要な処置を行っている。日々体調の変化があれば都度連絡相談にて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供し、都度連絡を取り合い経過や退院の調整も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」について説明を行い、同意を頂いている。重度となった場合に本人にとって良い対応及び、良い居場所を検討し、家族との話し合いの場で家族が決定できるように支援している。	重度化及び終末期支援の指針は入居時に説明している。同時に事業所として、どこまでの支援が可能か等を家族と話し合い同意を得ている。基本として看取りはしていないが、昨年度は看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアル及び急変時の連絡体制等常備して対応出来るようにしている。毎月医務室からの文書による指導があり、ケア会議にて勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	日中・夜間想定での避難訓練を各1回（計2回/年）を多機能ホーム及び隣接する新2と合同で行っている。	法人として定期的な訓練は行っている。昨年7月には多機能ホームと合同で、通報訓練、避難訓練、夜間想定訓練を行った。今年3月には隣のユニットと合同訓練を行う予定である。BCP(事業継続計画)では第3の花の里へ避難することになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々さりげない声掛けを行い、あだ名呼びをしないよう名字にさん付けで呼び、利用者の話は傾聴し、意向に添える支援を心掛けている。	同性介助を希望される利用者には、その意向になるべく治う支援を心掛けており、接遇やコミュニケーションの外部研修を年2回受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話の機会を持ち、自己決定が出来る環境づくり、無理強いしない支援を入居者の言葉や表情から汲み取りながら取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの時間の流れを把握し、また日々の状態を観察しながら無理強いせず、ある程度社会性を大切にしながら生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った身だしなみを支援している。本人の希望された衣類を着ていただく事で意欲の向上に繋がる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自身で出来る方は配下膳をして頂き、また出来ない方の分もして頂いている。食事の準備や片付け等も職員と一緒に積極的にされる利用者もいる。リハビリ目的であっても、感謝の気持ちを伝えている。	委託業者から高齢者専用のチルド食品が届き、味噌汁とご飯は事業所で利用者と共に調理している。月1回の行事食や外食は利用者の意見を聞き実践している。最近では利用者に好評のお寿司を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理も配食業者に一括して依頼している。冷凍で届いたものを湯煎し提供。食事・水分量については引き継ぎの中で伝達し確保できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科にて定期的に口腔ケア・治療をして頂き、指導の下、毎食後の口腔ケアやうがいを支援している。義歯はポリデント洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、排泄記録を見ながら定期的に声かけし誘導を行っている。	両ユニットとも基本的には自立だがチェック表にて見守りはしている。夜間に不安な利用者はポータブルトイレを使っている。声掛けが必要な利用者へは、睡眠を妨げない排泄支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を付け、排便の管理を行っている。看護師との連携に努め、服薬管理や運動等で腸の活性化を促したり、こまめな水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状態を見ながら本人の意向を大切にしている。季節感のある入浴剤等を使用し、リラックス出来るよう努めている。	入浴は週2回午後に行っている。入浴拒否の利用者へは声掛けの工夫、順番への対応支援、シャワー浴や足浴など、一人ひとりの気持ちに添った支援を心掛けている。職員とのお喋りや思い出話なども楽しみである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室となっているため、日中及び夜間も利用者のタイミングで休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの担当者を決め、服薬管理を行っており受診時の支援に努めている。薬の効能や副作用等についてもすぐに確認できるようファイルにて管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室の掃除や簡単な家事作業、おしぼり巻き等で役割を持って頂けるよう努めている。余暇は各自の趣味等をして頂いたり、時にはみんなでゲーム等をしながら楽しめる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援時は感染対策を行い少人数でのドライブや散歩等で気分転換している。家族と出掛けられるときは注意喚起して頂く様声掛けをしている。	外出も少しずつ出来る様になって来た。少人数でのドライブで梅や桜を見に出かけた。正月には家族との外泊や外食への外出が多く、普段は事業所周りの散歩や庭にあるベンチでの日光浴などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは管轄施設（第3）にて管理している。外出（買い物）に行く際はお小遣いから自身で支払いをして頂くが、外出支援が出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎで対応をしている。面会制限の緩和で家族等からの電話・手紙が減少している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔で住みよい空間づくりを目指しており、照明、採光、テレビの音量等に配慮している。食事準備の音や匂い、外気浴をすることで情緒の安定を図る等、五感に訴えて心地よい落ち着いた場の提供に努めている。	掃除も行き届き、清潔感があり、明るく過ごし易いフロアである。自然と皆が集まり楽しい空間となっている。トイレもプライバシーに配慮した場所にあり、自慢である開閉式の天井の中庭も見え、楽しみな空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外の場所で、気の合った利用者同士が話せるように椅子やソファ・机を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族持参の家具等で馴染みの空間を作っている。今年度も家族の入室が出来なかったため、職員と一緒にいる。新規入居者については家族と一緒に空間づくりをして頂いた。	新1はベッド、新2はベッドとクロゼットが、事業所で違いはあるが、どちらも清潔であり、利用者と家族との協力で、思い通りに出来た居室である。大事な遺影やテレビや小さな机と椅子など落ち着いた居室が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーとなっており、それぞれの居心地の良い自分に出来る事を十分に活かせる安全な環境づくりに努めている。		